

令和 7 年度 学校経営環境分析書

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因) 外部環境で宮中教育を支援してくれるもの 【地域】 ①比較的学校に対する期待感がある。 ②コミュニティ・スクールの導入により、地域から応援を・サポートを得やすいシステムができるつつある。 【市教委】 ③ビジョンを明確に示している。 ④学校に対する支援体制が厚い。 【県教委】 ⑤「学びの革新」全県展開に取り組んでいる。 ⑥服務規律の厳正化を図っている。 ⑦ICT 機器等の環境が整っている。 【国】 ⑧学習指導要領の則り、未来社会を切り拓くための資質・能力の育成を図っている。	S (強み) 内部環境で、宮中のもっている強み 【学校】 ①不祥事根絶に向け、教職員が危機意識を持って取り組んでいる。 ②部活動休養日の確保等、適度な部活動の意識が定着している。 ③SSR を開設し、教室以外の生徒の学びの場がある。 【生徒】 ④個人差があるが、落ち着いた態度で授業に取り組む生徒が一定数いる。 ⑤個人差はあるが比較的眞面目に物事に取り組む生徒が一定数いる。 ⑥生徒会を中心にあいさつ運動に取り組んでいる。 ⑦学校外のボランティア活動に参加する生徒が多い。 【保護者】 ⑧PTA 役員をはじめ、学校に対して協力的な保護者が多い。	内部環境
	T (阻害的要因) 外部環境で宮中教育をはばむもの 【地域】 ①地域で子どもたちを育てるという感覚が一部に留まり、希薄になってきている ②今求められている教育について十分な理解がない方がいる。 【市教委】【県教委】【国】 ④調査物が多く集中することがあり、他の業務を圧迫することがある。 ⑤現場の状況にあっていない取組が周知されることがある。 ⑥アンケートの種類が多い。 ⑦教育予算や制度についての現状把握や改善ができていない。	W (弱み) 内部環境で、宮中のもっている弱み 【学校】 ①令和6年度、勤務時間外労働月 45 時間以内の教職員が 63% である。(2月末段階) ②学校の様子の保護者への情報提供が少ない。 ③ICT 機器の効果的な活用に向けて奮闘努力しているが、生徒に日常的に活用させるところまで至っていない。 【生徒】 ④学力が定着していない ⑤自分で考え判断し行動できない、生徒が多い。 ⑥特性を持っていたり、落ち着かない生徒が多く、他の生徒への影響がある。 ⑦集団での学びが難しい生徒がいる。 不登校生徒数 令和 6 年度 27 名 【保護者】 ⑨学校に対する期待が大きく、教師に無理な要求をする保護者が一部いる。 ⑩家庭の教育力が低下している。 ⑪保護者どうしのつながりが希薄になってきている。	

支援的要因と強みを生かした活動・取組

確かな学力の育成

主体的で対話的な学びの創造、授業改善
O－①③④⑤⑦⑧
S－③④⑤

豊かな心の育成

自己指導能力を育成
主体的に判断し行動できる人間性の育成
不登校生徒の未然防止及び支援
O－①②③④
S－③④⑤⑧

郷土愛の育成

コミュニティ・スクールの推進
地域貢献
O－①②③④
S－④⑤⑥⑦⑧

信頼される学校づくり

学校組織の機能化
W－②
服務規律の厳正化・不祥事の根絶
働き方改革の推進
教職員の働きがいの推進
W－①⑨

未来を切り拓く力の育成

求められている資質能力の周知・理解
T－①②③⑤
W－⑥⑦⑧⑨⑩⑪

弱みを克服し、阻害的要因を回避する解決策

2 本年度重点目標

- ① 確かな学力・・・育成すべき資質・能力の育成及び授業改善

② 豊かな心・・・自己指導能力の育成、道徳性の育成、郷土愛・・・自己有用感の育成

③ 働き方改革の推進及び働きがいのある職場づくり

④ 服務規律の厳正化・不祥事の根絶

⑤ コミュニティ・スクールの推進